令和5年度　結集！しまねの子育て協働プロジェクト事業　地域と学校の連携・協働体制構築についての課題及び目標について

背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
小中学校での地域コーディネーターの活動時間数に格差があり、年間15時間未満の活動実績しかないコーディネーターがおり、学校支援が十分に行われていない現状がある。	年間15時間以上の活動を義務付ける。	地域コーディネーターの活動が活性化することにより、地域住民を巻き込んだ活動が増え、活動に参加した地域住民の自己有用感が高まり、地域の中に子どもに関わろうとする大人が増える。関わる人が増えることで、次代のコーディネーターの育成につながり、新たな学校支援ボランティアの確保・育成につながる。	年間15時間以上の活動を行うコーディネーターの割合	わずかに改善が見られたが、目標値の達成に至らなかった。主な要因としては、公民館が掛け持ちで地域コーディネーターとして活動しており、負担が増えていることや、新たにコーディネーターとなった方がおり、役割についての理解度が習熟していないことがあげられる。来年度に向け、新たなコーディネーターの確保、学校との顔合わせ、コーディネーター同士の情報交換の機会などを設け、活動時間の増加を目指す。
放課後子ども教室において、多様な体験活動を実施できている教室とそうではない教室との間に格差がある。	各教室で年間10回以上は地域資源を活かした多様な体験活動を支援員とともに実施する。	多様な体験活動を通じて、地域のひと・もの・ことを上手く活用し、子どもの郷土愛の醸成を図るとともに、参画した地域住民の自己有用感の向上が図られる。	自由遊び（体育館や空き教室を使った子ども主体の遊びのことを示す）以外の体験活動を年間10回以上実施できている教室の割合。	体験活動を行う教室の割合は増えたものの、学校行事、感染症などの影響から教室の開催数が減っており、目標値の達成に至らなかった。来年度は、月1回程度の体験活動の実施を目指し、各教室担当者と連携し、体験活動の機会の充実を図る。